

4月5日(日曜日) 「贖いの完了」

【新改訳 2017】

ルカ22・47－23・56

「その時、イエスはこう言われた。『父よ、彼らをお許してください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです。』……」(23・34)

ヨハネ19・30「イエスは…『完了した』と言われた。そして……霊をお渡しになった。」

受難週第六日目のことです。今回はルカが中心ですが、他の福音書の関連記事もぜひお読みください。ここには「贖い」の主要な真理があります。①赦し、②主イエスの十字架刑(=身代わりの犠牲)、③完了です。ゲッセマネの園で血のにじむような祈りを父にささげたイエスは、その直後に捕えられ、エルサレムで六回も裁判に付され、むちで打たれ、不当な屈辱を受けられ、ついに十字架刑に付けられました(イザヤ53章の成就)。苦悩と苦痛の痛みの中で、ご自分を苦しめている彼ら(罪人)のために、ご自身を身代わりの犠牲としてささげて「赦し」のとりなしをされました。ここに「救い」のみわざは完了し、だれでも、このことを自分のためと信じる信仰によって救われるのです。なんという感謝でしょ

う。

～祈り～

主よ。あなたの十字架上の祈りと救いのみわざを心から感謝し、御名を  
賛美いたします。一人でも多くの方がこの御救いにあずかれますよう  
に。

(学びのために)贖いとは:「買い取る、あるいは、身代金を払って見受  
けするという概念」(新聖書辞典)です。キリストは、ご自身を私達罪人  
の身受けをするための身代金(犠牲)としてくださったのです。ここに  
神の愛があるのです。